

今週のお祈り 復活後第3主日特禱

神よ、養れあるみ子は、パンを裂くみ姿のうちに、ご自身を弟子たちに示されました。み恵みによって、わたしたちの信仰の目が開かれ、贖いのすべてのみ業のうちに主を見いだすことができますように、父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン



日本聖公会 東京教区
聖パウロ教会 にちようがっこう
〒153-0053 目黒区五本木 2-20-1
でんわ：03-3710-6031

号外94

発行日
2022年
5月1日

今日の聖書はパンと魚のお話。復活なされたイエスさまが与えてくださるパンの恵みを、私たちは毎日主日いただいています。復活のイエスさまが共におられ、私たちを強め導いてくださいますように！

今週の聖書 ヨハネによる福音書 21:1-14

1 その後、イエスはティベリアス湖畔で、また弟子たちにご自身を現された。その次第はこうである。2 シモン・ペトロ、ディレイモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち、それにほかの二人の弟子が一緒にいた。3 シモン・ペトロが、「私は漁に出る」と言うとき、彼らは、「私たちも一緒に行こう」と言った。彼らは出て行って、舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何も捕れなかった。4 すでに夜が明けた頃、イエスが岸に立っておられた。だが、弟子たちは、それがイエスだとは分からなかった。5 イエスが、「子たちよ、何かおかずになる物は捕れたか」と言われると、彼らは、「捕れません」と答えた。6 イエスは言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすれば捕れるはずだ。」そこで、網を打ってみると、魚があまりに多くて、もはや網を引き上げることができなかった。7 イエスの愛しておられたあの弟子がペトロに、「主だ」と言った。シモン・ペトロは「主だ」と聞くと、裸だったので、上着をまとい湖に飛び込んだ。8 ほかの弟子たちは魚のかかった網を引いて、舟に戻って来た。陸から二百ペキスばかりしか離れていなかったのだから。9 陸に上がってみると、炭火がおりてあった。その上に魚が載せてあり、パンもあった。10 イエスが、「今捕った魚を何匹か持って来なさい」と言われた。11 そこで、シモン・ペトロが舟に乗り込んで網を陸に引

聖書からのメッセージ 『食卓を分かち合う』 司祭 池 星 熙

本日の出来事はティベリアス湖畔から始まります。「ティベリアス湖」は、ガリラヤ湖の別の名です。イエスさまの7人の弟子たちはガリラヤ湖で魚を取っていました。イエスさまは彼らに会いにガリラヤにいらっしやいました。ここで私たちが忘れてはいけないことは、ペトロと弟子たちは復活したイエスさまに、すでに会っていたという事実です。イエスさまが死を迎えたその絶望の心を残したまま、すべての希望を失い自分たちの本来の職業だった漁師の姿に戻っていました。弟子たちの心をよく分かっていたイエスさまは捕れた魚で朝食を用意し、弟子たちと一緒に召し上がります。弟子たちはイエスさまとの過去の出来事を思い出し、苦楽を共にしたことを思い出し、食卓を分かち合います。イエスさまは彼らと共にし、彼らに愛し、彼らに永遠の命を与えると約束し、自分は本当に復活したのだと彼らに認めさせたのです。この出来事は、主がいつも私たちと同じ食卓で食事を分かち合い、共にいらっしやるということを思いださせてくれるのです。

き上げると、百五十三匹もの大きな魚でいっぱいであった。それほど多く捕れたのに、網は破れていなかった。12 イエスは、「さあ、来て、朝の食事をしなさい」と言われた。弟子たちは誰も、「あなたはどなたですか」と問いただそうとはしなかった。主であると分かっていたからである。13 イエスは来て、パンを取り、弟子たちに与えられた。魚も同じようにされた。14 イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現れたのは、これでもう三度目である。